

# 公益社団法人 日本文藝家協会

## 令和4年度事業報告

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

### 【概要】

令和4年度もコロナ禍に一喜一憂する1年となった。2022年7月からの第7波では8月19日に全国で26万1,004人の感染者が報告され、続く第8波では2023年1月6日に24万6,751人を記録した。その後は落ち着きを見せはじめ、3月13日以降はマスク着用推奨の基準が緩和され、個人の判断が基本となった。全国の感染者数も4月中旬段階で、概ね1万人前後と安定している。

そうした状況の中、第76回定時総会は5月12日、アルカディア市ヶ谷において、オンラインを併用して開催された。社会全体としてリモート参加への障壁が下がったことも手伝ってか、全国各地の会員からアクセスをいただき、すべての議案が滞りなく承認された。続いて3年ぶりとなる懇親会を着席形式にて行った。

協会創立100周年に向けての記念事業として記念映画の製作と百周年史の編纂が進んでいるが、今期はさらに文士劇の公演が決定した。伝統ある盛岡文士劇の知見を借りつつ、2026年5月の公演を目指して準備を開始した。

また、従来の委員会構成を整理・改組し、現状の課題に合わせて再編成した。

今年10月より施行されるインボイス制度への対応を検討するため、協会顧問税理士を招いて勉強会を開催。会員向けにその模様を概要およびQ&Aにまとめ、10月の文藝家協会ニュースに同送した。

### 公益事業1 普及事業

#### 1 講演会等事業

リアルでのイベント開催に代えて、ネットを通じた発信を行った。

4月、先期に収録した座談会「チョルノーブリ・ナガサキ 核の時代を読む 文学に何ができるか」（亀山郁夫会員、青来有一会員、司会 村上政彦常務理事）のインターネット公開開始。

5月、先期に収録した座談会「言葉を知る。言葉を学ぶ。言葉を教える」〈鼎談・国語教育をめぐって 第2回大学入学共通テストと高等学校学習指導要領〉（紅野謙介会員、阿部公彦理事、伊藤氏貴理事）のインターネット公開開始。

7月、鼎談「詩人のみた欧州」（四元康祐、山崎佳代子、司会 中沢けい常務理事）をベオグラードと東京を結んで開催。翌月、インターネット公開。

#### 2 データベース事業

日本近代文学館との共同事業である『日本近代文学大事典』増補改訂・デジタル化プロジェクトは無事に第一次公開が完了し、今後継続的に行われる補訂・項目追加・画像付加等に係る作業は、2024年3月までを対象に授業目的公衆送信補償金等管理協

会の共通目的事業における助成事業の一つとして採択された。

長らく手を入れていなかった事務局のメールシステムについて、グループウェアとの親和性が高い製品へのリプレイスが完了。局内データベースシステムとの連動を視野に入れた運用を開始した。

簡素で一元的な権利処理方策と対価還元のための「分野横断権利情報データベース」の実用化について審議会ほか、さまざまな場を通じて意見と要望を表明した。

### 3 編纂事業〈編纂書籍の発行〉

#### 1) 「文藝年鑑」の発行

文芸各界の一年間の話題と動向を集約した「文藝年鑑」を新潮社より刊行。文学賞、訃報、雑誌掲載作品目録に加えて、作家・文化人・全国同人誌・著作権関係者の連絡先など便覧を更新した。

『文藝年鑑2022』6月30日 新潮社 本体価格4,400円

編纂委員／川村 湊 伊藤氏貴 青山 南 紅野謙介 鴻巣友季子 沼野充義  
三浦雅士

#### 2) 文芸アンソロジーの発行

令和4年度の文芸アンソロジーの発刊は以下の通り。

『文学2022』6月21日 講談社 本体価格4,000円

編纂委員／川村 湊 磯崎憲一郎 伊藤氏貴 金原ひとみ 島田雅彦

『時代小説 ザ・ベスト2022』6月25日 集英社文庫 本体価格900円

編纂委員／川村 湊 雨宮由希夫 伊藤氏貴 伊東 潤 木内 昇 末國善己

『ベスト・エッセイ2022』8月5日 光村図書出版 本体価格2,000円

編纂委員／角田光代 林 真理子 藤沢 周 堀江敏幸 町田 康 三浦しをん

『短篇ベストコレクション 現代の小説2022』8月10日 小学館文庫 本体  
価格910円

編纂委員／川村 湊 伊藤氏貴 清原康正 杉江松恋 千街晶之

#### 3) 編纂物の海外寄贈

海外の日本文化研究者や文芸愛好家に向けて、現代日本の文芸作品を紹介・共有することを目的に、在外の日本文学および文化関係の研究センター、大学図書館や教育機関などの37施設に寄贈した。

### 4 文学モニュメント運営事業

10月に富士霊園で予定されていた恒例の文学者之墓墓前祭式典は中止した。

新規に4名が手続きされ、総墓碑氏名は868名となった。没年月日等、追加の彫刻施工は17件。この1年で11組のご遺族が遺骨・遺品を埋葬した。

### 5 文藝家協会ニュース発刊事業

会報紙「文藝家協会ニュース」を8月・2月を除く月末に会員および関係各所に向けて発行した。累計828号。理事会の模様や開催イベントの報告、著作権関連の動向、会員からのメッセージなど、協会の活動の紹介や会員への呼びかけを行った。1月には「令和4年分の所得税及び復興特別所得税等の確定申告について」を同送した。

### 6 障害者等支援事業

視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）の施行に

に伴い、読書困難者への社会的サポート体制充実に向けた制度面でのアクションが活発化した。

経済産業省の読書バリアフリー環境整備のための電子書籍市場等の拡大に関する検討会に参加し、著作者・著作権者として求められている事項や役割についての要望を収集しつつ、可能な支援の在り方の実態について立場を表明した。また、出版界の取り組みである一般社団法人 日本出版インフラセンターのアクセシブルブックス・サポートセンター（A B S C）の設立に参加した。

## 公益事業 2 著作権管理事業

文化庁の文化審議会著作権分科会に中沢けい常務理事が委員として参加した。同分科会基本政策小委員会でのヒアリングの意見聴取に対して文書で回答するとともに、事務局長が出席の上で協会の立場を表明し、委員からの質疑に答えた。

三田誠広副理事長が公益社団法人 著作権情報センター（C R I C）理事、一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会（S A R T R A S）副理事長、一般社団法人 出版物貸与権管理センター（R R A C）顧問、一般社団法人 A B J の監査委員を務め、事務局長が公益社団法人 日本複製権センター（J R R C）理事に、また協会として一般社団法人 出版ADRの社員に名を連ね、それぞれの団体の運営や意思決定に積極的な関与を続けた。事務局長が国立国会図書館の資料デジタル化及び利用に係る関係者協議会や著作物の教育利用に関する関係者フォーラム等の会議体に委員として参加した。

日本著作者団体協議会やオーファンワークス実証事業実行委員会等の著作者・著作権者団体による協議体を通じて、各種情報の共有や課題研究を行うにあたり、幹事団体として中心的役割を担った。

### 1 著作権管理事業

当事業のコアに位置する個別許諾業務については年間の著作物仲介実績として、許諾件数が11,934件、著作物使用件数では76,431件となった。受領総額は約7億1,700万円、手数料収入が約6,500万円で昨年に比して、それぞれ105.4%、116.8%と順調に推移している。毎年多くの申請手続きが必要な大口ユーザーの省力化と、それに対応する管理部の許諾業務の合理化を図ることを目的に、利用者の要望を取り入れながら、ウェブ申請システムをバージョンアップした。

日常業務として、会員、委託者、申請者または一般からの著作権に関する相談に広く対応しつつ、パターン化が困難な著作権管理業務も多数処理した。入学選抜試験における文芸作品の不適切な利用を根絶するため、例年に引き続き、全国の教育委員会、中学校・高等学校、大学に向けて「入試問題に関する要望書」を送付した。

### 2 補償金等受け取りおよび分配事業

例年通り、私的録音補償金が日本脚本家連盟経由で、教科用図書掲載補償金が各教科書会社から支払われ、それぞれ該当の権利委託者に分配した。

今期より授業目的公衆送信補償金の分配作業に着手した。

著作権施行令の改定に伴い、拡大改組された一般社団法人 私的録音補償金管理協会（s a r a h）に参加、事務局長が理事に就任した。

今年から、一定の要件を満たした図書館では蔵書のページ画像データを登録利用者へ送信するサービスの実施が可能となる。これに対する補償金の収受・分配を行う団体として一般社団法人 図書館等公衆送信補償金管理協会（SARLIB）が設立され、事務局長が理事に就任。補償金案の策定やガイドラインの取りまとめにあたった。

### 公益事業3 調査研究事業

#### 1 広報・提案事業

4月、都倉俊一文化庁長官を林理事長はじめ数名で訪問、日本の文芸作品の海外展開に関する方策について意見交換を行った。これを受けて文化庁による「活字文化のグローバル発信・普及事業」の実施に協力し、初年度からビジネススペースで一定の成果が確認された。

文化庁の文化審議会国語分科会国語課題小委員会に村上政彦常務理事が委員として参加した。国立国会図書館の納本制度審議会には仲俣暁生評議委員が委員として参加した。

また、Twitterの公式アカウントを通じて地道な発信を続けている。

#### 2 「著作権評価に関する意見書」作成事業

著作権の利用に関して一定以上の印税収入のあった著作権者の遺族や相続税の基礎控除を超えた会員の依頼により、各種情報を収集・精査の上、第三者の立場から公平・厳正な「著作権評価に関する意見書」の作成に努めた。依頼者から感謝の声をいただくと共に税務当局からの信頼も得ている。

#### 3 連絡仲介事業

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立国語研究所からの「現代日本語書き言葉均衡コーパス」に係る収益を、日本児童文学者協会、日本児童文芸家協会、日本推理作家協会、日本ペンクラブに向けて分配した。一般公開を目的としたサンプルデータの提供に対するものである。

6月、日本をテーマ国にブカレスト・ブックフェストが開催されるに際して、現地大使館の要請を受け、シンポジウム・セッションにおける日本人作家数名の参加をアサイン。オンラインによる参加が実現した。

会員・使用者・メディア・出版社などからの著作権利用の問い合わせ、許諾・企画実現のための相談などに幅広く対応し、相手先への連絡仲介支援を行った。

以上